



4ヵ月間にわたり、三新田遺跡を発掘調査

三新田遺跡発掘調査

千六百年の眠りを覚ます

奈良時代の大規模な建造物址を発見

市教育委員会は、三新田遺跡を昨年10月から今年1月まで、4ヵ月間にわたって発掘調査しました。

調査の結果、古墳時代及び奈良・平安時代の住居址や土器などを多数発見し、当時、この地区には大集落があったことを確認しました。

特に、奈良時代後半の特殊建造物址は、他の住居に比べ極端に規模が大きく、寺院又は役所址ではないかとみられています。

縄文から平安時代の遺跡

大野新田、桧新田、田中新田にまたがる三新田遺跡は、古墳時代から奈良時代の遺跡といわれ、今までに多くの土器が出土していました。

今回の調査は、三新田土地区画整理事業にともない行ったもので、本格的な調査としては初めてのものです。したがって、三新田遺跡を解明するうえで、大変重要な調査となりました。

調査面積は、A・B地区の2ヵ所で、A地区が2,500平方メートル、B地区が2,700平方メートル。当初2ヵ月間の調査期間を予定していましたが、著しい土層の変化と、予想をはるかに上回る数多くの遺構と出土品のため、さらに2ヵ月の期間延長をしました。

この附近は、地形的には海岸砂丘の丘陵地で、南に駿河湾、北に浮島沼と愛鷹山麓をもち、魚類などの食糧も大変豊富なため、古くから人が住んでいたと考えられています。

すでに大集落を形成

調査ではA・B地区合わせて、古墳時代初め（4世紀）の住居址が36軒、奈良から平安時代（8世紀～9世紀）の住居址が18軒見つかりました。古墳時代初めの住居址からは、<sup>かめ</sup>甕・<sup>つぼ</sup>壺などの土器が多数出土しました。

今回の発掘場所が、三新田遺跡の北端（中心は東海道線南側）にもかかわらず、相当数の住居址が発見されたことは、当時のこの地域の繁栄ぶりを知ることができます。



三新田遺跡位置図

| 西歴             | 前300   | 300                                | 700                      | 800   | 1100  |
|----------------|--------|------------------------------------|--------------------------|---|---|
| 契機             | 弥生     | 古墳                                 | 奈良                       | 平安  | 鎌倉  |
| 主な歴史事項         | 稲作農耕生活 | 前方後円墳<br>(仁徳天皇陵)<br>大型古墳が<br>つくられる | 大宝律令完成<br>平城京遷都<br>寺の造営  | 国分寺国分尼<br>政治はじめる<br>藤原道長摂関<br>征夷大將軍<br>平安遷都 | 源頼朝征夷大<br>將軍となる<br>平氏滅亡<br>壇ノ浦の合戦<br>平清盛太政大<br>臣となる |
| 三新田遺跡と<br>その周辺 | 今泉沖田遺跡 | 浮島沼周辺の<br>遺跡                       | 古墳時代の住居<br>址(カマドがな<br>い) | 奈良時代の住居<br>址(カマドをも<br>つ)                    | 実相寺創建   |

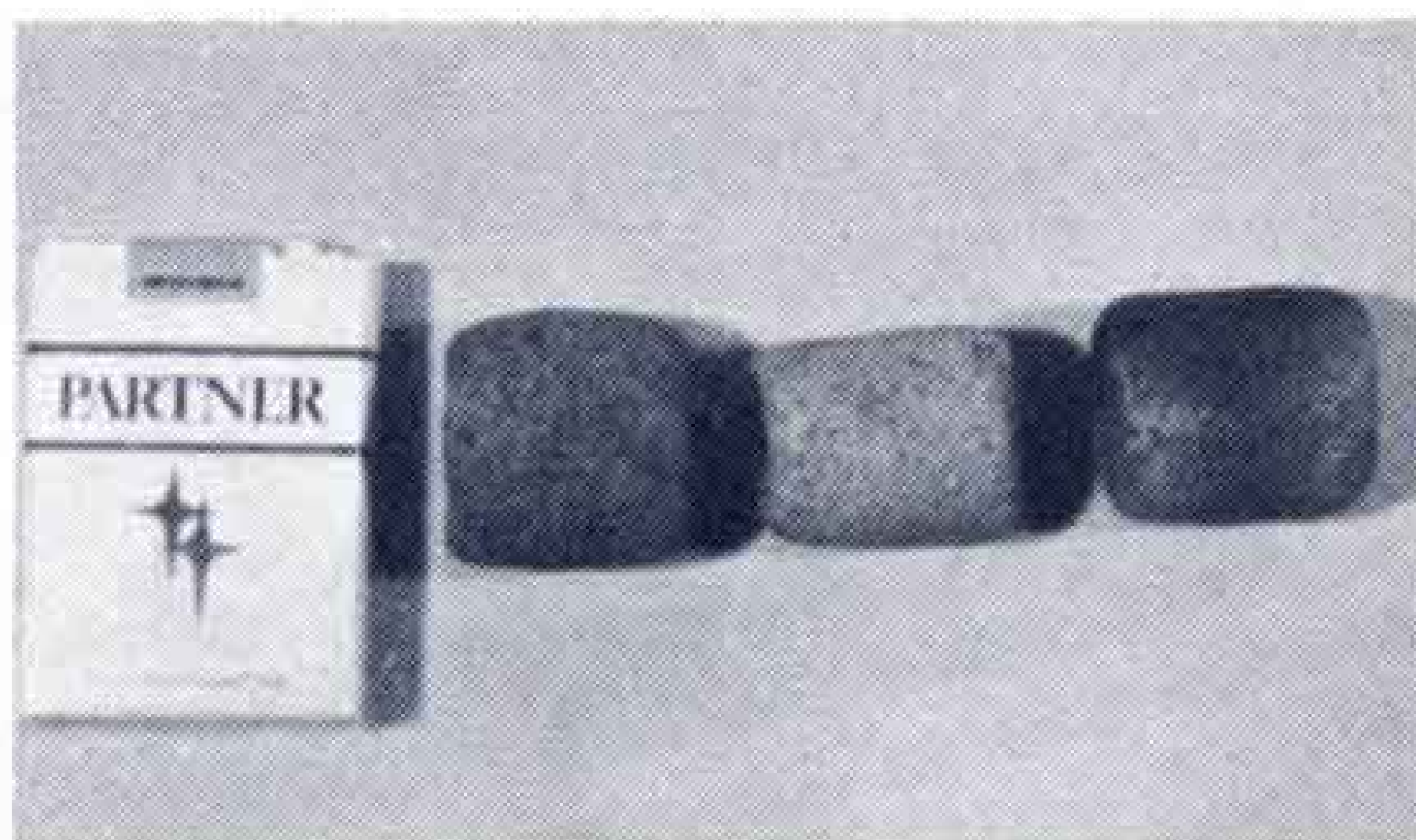
また、奈良時代後半(8世紀後半)の特殊大形建造物址が、A地区から1棟発見されました。この特殊建造物址は、1辺が16メートルもあり、他の住居址に比べ極端に規模が大きく、普通の遺跡では見られず、建物の近くからは布目瓦片ぬのめがわらが出土しました。

出土した布目瓦片は、この特殊建造物に使用されたものと思われます。

このような大形の瓦を使用する建物は、当時の寺院及び官衙かんがと呼ばれる役所、あるいは大豪族の館などに限られていました。

これに伴って、陶器の上に緑色のうわ薬を塗った緑釉陶器片りよくゆうと青銅製品も見つかりました。

緑釉陶器は、当時、朝廷から贈られ



網のおもりに使われた「土錘」

る品物であり、これを贈られた有力者がこの地域にいたという証明につながります。この陶器は、他の遺跡ではほとんど見つかっておらず、県内では浜松の伊場遺跡いばに次いで、2番目です。このほかに、屋敷の境界線と思われる奈良時代後半の柵列状遺構がA地区で2本、奈良時代の溝状遺構がA・B地区で1本ずつ見つかっています。



奈良時代の土器「高坏」と「壺」



大形特殊建造物跡

うな遺跡は、非常にめずらしく特異なケースといえます。

## 県内でも有数な遺跡

今回の調査では、三新田遺跡を解明する上で非常に貴重ないくつかの資料を得ることができました。

まず第1に、奈良時代において中央では律令政治が行われており、出土品などからみて、この地方も中央との強い結びつきがあったものと思われる。そして、この地域に相当の有力者がいたということです。

第2に、これまでは今からおよそ1,600年位前の古墳時代のころからこの地に人が住み始めたといわれてきましたが、今回の調査では、縄文式土器さかのぼも発見されており、もっと遡って約3,000年位前から人が住んでいたと考えられます。

第3に、市内では奈良時代から平安時代の遺跡として、伝法の東平遺跡がありますが、この時代と結びつく前後の時代がわかったということです。

このように、三新田遺跡は市内はもとより県内でも有数な遺跡であることが確認されました。

## 巨木の井戸わくが見つかる

住居址や遺構の他に、A地区の特殊建造物址東隣りからは奈良時代の井戸址が、その南側からは平安時代の井戸址が発見されました。

奈良時代の井戸址からは、桧の巨木をくりぬいた直径1メートル程の井戸わくが、ほぼそのままの状態

で見つかりました。これは、市内では初めてのものです。

平安時代の井戸址は、直径3メートル程もあり、共同で使用したと思われる足場もありました。

この他に、土器類が数多く出土しているのも今回の調査の特徴です

「土師器」と呼ばれる素焼きの土器では、甕・壺・坏などが。甕は物を煮たきするとき、壺は物を貯蔵しておくときに、坏は物をのせるときなどに生活必需品として主に使われました。

「須恵器」と呼ばれる高度の技術で作られた灰色の土器も多く出土しました。

土師器の中には、器へ人の名前を書いた「墨書土器」も見つかりました。

土器類の他に、主な出土品として、漁をするときの網のおもりに使う「土錘」が約150点と「石錘」が3点。

これは、この地域が海や沼に囲まれており、漁撈を中心とした生活をしてきたためと思われます。このよ



奈良時代の木の井戸わく